

ことの意義を大事にしたいのです。私たちが子供に望む態度や能力と同じ事ですが…。

佐久間 庄司先生は福島大学において教員養成に力を注がれておられますが、先生の立場からのお考えをお聞かせください。

庄 司 福大は全国的にみても教員養成に熱心に取り組んでいて、現在でも採用状況は良い方ですね。

「専門的学問と教科教育」の両面に力を入れておりますが、やはり卒業論文の意義が非常に大きいと思っております。しかし最近がむしろに取り組む学生がやや少なくなっているような気がします。

もっと意欲的に、課題意識をしっかりとって教職の道をめざそうとする学生を育てなければと思っております。

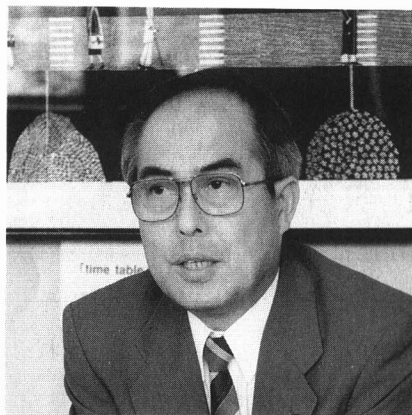
また、福島大学にも現職教員の中から入学される大学院生がいます。他の大学では1年間が多いようですが、うちは2年間での研修を行っています。いずれの院生も大変熱心に研究に取り組んでおりますし、また、現場の学校に戻ってから活躍している先生が多いとお聞きしております。今後いっそう努力したいと思っております。

佐久間 水野所長さん、教育センターの研修講座では、特に研修生の積極的な研修を促すために、どのような工夫をされていますか。

水 野 教育センターの研修は、大きく基本研修と専門研修に分けられます。基本研修は、教職経験の節目の年に参加していただいています。

専門研修は、本人の希望により参加していただいております。

専門研修の場合では、できるだけ研修される先生方に自己課題を持っていただき、その解決



水野 信所長

のためにセンターの所員が援助するよう配慮しております。

研修に来られる前に課題解決の構想を練り、センターにおいては、講話や講義を聞いたり、書物を調べたり、所員の援助を受けたりして課題解決が図れるようにしています。

また、できるだけ中央から著名な講師の先生方を招聘して、最新の情報を拝聴できるような配慮もしています。研修生にとって有意義で、豊かな識見が身に付くような講座運営の在り方を求めて努力しております。

【校内研修で高めたい教員の資質】

佐久間 校内研修は、各学校が当面している教育的課題の解決を目指して行われるのはもちろんですが、校内研修を通して教員の資質を高めたいという願いもあります。

この点についてお考えをお聞かせください。

高 原 わたしは、教員の資質を人格性プラス専門性であろうと思っておりますが、研修全体を通してそれらを育てたいと思っております。

これからの時代においては、教員は専門職なんだという自覚と責任を持って児童生徒にあた